

令和2年度 学校評価報告書

学校教育目標		自ら学ぶ力と豊かな心を持ち、ともに持続可能な社会を創る子どもの育成		重点目標	読む力を付け、考えを深め合う子どもの育成		周りの人を大切にし、よりよい学校や社会をつくる子どもの育成	
評価計画				自己評価		学校関係者評価		改善計画
重点目標	目標達成のための方策(取組指標)	成果指標	評価	結果(成果○と課題△)		コメント		次年度における改善策(案)
重点目標に 関する評価	確かな学力 読む力を付け、考えを深め合う子どもの育成	○[算数]前に学習したことを掲示し、子どもが問題解決や対話活動に生かすことができるようにする。	○算数「思考力・判断力・表現力」 正答率→80%	3	○算数の時間に、前に学習したことを掲示して子どもが自分で問題解決の見通しを立てるようにし、問題解決の過程を説明する活動を行うようにしたことにより、筋道を立てて考える力を育てることができた。 ○市立図書館の本や新聞記事を活用して、分かったことや考えたことを書く活動の機会を増やした。 △読む力、書く力とも引き続き育てていく必要がある。教育課程全体で書く活動の充実を図る。	A	・自己評価は適切である。 ・考える力が育つ大事な時期に、算数で筋道を立てて考える力を育てる指導をしていることが大変よいと思う。 ・図書館や新聞の活用で、読む力、書く力が育っている。松原中と共通の取組にも期待する。 ・校内作文コンクールの開催など、子ども達の書く活動の機会を増やしてほしい。	・思考力・判断力・表現力を育てる書く活動について各教科等の特質と系統性を踏まえて教育課程全体で実施する。 ・習熟度別指導と確実な見取りで学力向上を図る。 ・松原中学校・中友小学校とともにNIE(教育に新聞を)に取り組み、読んで考える力を3校で育てる。 ・実地調査や資料を活用して調べる活動の機会を増やす。
		○[算数]図・言葉・式を使って書く活動を行うようにする。	○問題解決の過程を図・言葉・式で筋道立てて説明できる子ども→80%	3				
		○[国語]教科書や図書館の本を読み、分かったことや考えたことを書く活動を行うようにする。	○本や文章を読んで、内容を説明したり、考えたことを説明したりすることができる子ども→80%	3				
		○[生活科・社会科・総合的な学習]本や資料を活用して調べる活動や調査・取材・観察の活動を単元の学習に位置付ける。	○社会科「思考力・判断力・表現力」→80% ○調べるための方法を身に付け、目的に応じて活用する子ども	3				
豊かな心 周りの人を大切にし、よりよい学校をつくる子どもの育成	豊かな心 周りの人を大切にし、よりよい学校をつくる子どもの育成	○「みんなの笑顔と未来プロジェクト」の推進 ・福祉・環境・防災・世界遺産等で地域や世界とのかかわりを深める活動の工夫	○学校や地域、世界のために友達と力を合わせて活動する子ども→90% ○地域の人々に感謝の気持ちを表す子ども→90%	3	○「フラワータウンプロジェクト」で子ども達が花を育てたり、花で感謝の気持ちを表したりする活動に意欲をもって取り組んだ。 ○防災学習で「減災カルタづくり」「非常用持出袋の中身を考えよう」「通学路で大雨にあったら」など実際の行動につながる学習ができた。 ○進んで挨拶をすることや下級生に親切にすることなどがよくできている。 △思いやりのある歩行に課題がある。	B A A A A	・自己評価は上方修正すべきである。 ・友達と力を合わせて花を育てる活動により、意欲や感謝の気持ちが生まれている。指標には表れていない効果も表れている。 ・やさしい子ども達が育っている。 ・子ども達が育てた花の開花に合わせて花壇に地域の高齢者を招くなどして、子ども達に他人の役に立つ喜びを味わってほしい。	・「フラワータウンプロジェクト」を応援してくださる方や中学校と連携した取組をより一層進める。 ・児童会を中心とした子ども達の主体的活動によりSDGs/ESDの取組を推進する。 ・子どもがよいことを進んで行い、自分のよさを実感できるような生活目標に改善する。
		○係や当番活動、掃除の指導と評価 ・意欲を高める掲示物 ・活動の場、帰りの会での評価・励まし	○係や当番活動、掃除を責任をもって行う子ども→80%	3				
		○生活目標の指導の徹底 ・月1回の全校集会での指導と学級指導 ・生活目標がんばり表での自己評価	○履き物をそろえる子ども→80% ○進んで挨拶をする子ども→80% ○廊下を右側歩行する子ども→80% ○下級生に親切にする子ども→80%	3 4 2 4				
		○いじめアンケートにもとづく聞き取り→同学年での協議→いじめ対策委員会に報告	○アンケートに基づく聞き取りや教育相談の実施→100% ○認知したいじめの解消→100%	4				
いじめ防止 いじめを「しない、させない」子どもの育成	いじめを「しない、させない」子どもの育成	○いじめを取り上げた道徳の時間の指導を5月に実施。「親切・思いやり」「友情・信頼」の指導を毎学期1時間ずつ実施。	○いじめとは何かを知り、いじめをしない、させない子ども→90%~100%	3	○いじめアンケートの確実な実施と点検、聞き取りと面談をもとに、いじめの認知と解消に努めた。 △相手が嫌がることをしない児童が大多数だが、いじめをさせない、許さない学級づくりをさらに進めていく必要がある。 ○100人以上の子どもが、「友達応援隊」の活動に参加している。 ○チェックリストの回収・聞き取りを確実にし、家庭との連携に努めている。	A A A A	・自己評価は適切である。 ・先生の日々の心配りの成果だと思う。いじめの認知・解消に感謝する。 ・友達応援隊はすばらしい取組である。誰でもできる取組なので、上級生が下級生に奨めて隊員を増やしてほしい。 ・いじめは、見えないところで起こるので、みんなで見守っていききたい。	・子どもの表情・人間関係の観察と聞き取りを細かにし、いじめの早期発見に努める。 ・担任と担任以外が連携し複数の目で子どもの変化を把握する。 ・いじめをさせない、許さない集団づくりと、子どもの自己有用感を高める友達応援隊の活動の充実を図る。
		○児童会の取組の充実 ・「友だち応援隊」の活動→7月から実施	○友達応援隊の活動への参加50人以上	4				
		○家庭との連携 ・家庭用チェックリストの配布	○チェックリストの記述への対応(保護者への聞き取り)→100%	4				
		○福岡アクション3の実践 ・欠席1日で電話、欠席3日で家庭訪問	○不登校の状況の改善 →前年度より登校日数が増加	3				
不登校防止 元気に登校してくる子どもの育成	不登校防止 元気に登校してくる子どもの育成	○出欠状況の確実な把握	○毎日の健康観察・電話による、無届け欠席・遅刻の確認→100%	4	○福岡アクション3の実施、スクールカウンセラーへの相談等により、前年よりも不登校は減っている。不登校の児童に対しては、担任が家庭訪問をするなど継続して支援を行っている。 ○学校生活アンケートの「教師との関係」は、目標値を達成している。	A A	・自己評価は適切である。 ・不登校についても十分に取組んでいる。 ・スクールカウンセラー等の専門家を大いに生かしてほしい。 ・今後も一人一人の状況に応じて取組んでほしい。	・担任からの手紙、子どもからの手紙等で不登校の子どもとのつながりを切らさないようにする。 ・自然体験や勤労体験を取り入れた教育活動で登校意欲を高める。
		○健康観察、学習指導、ノートや日記等を通して児童理解に努め、励まし、悩み等を聞く。	○学校生活アンケート「教師との関係」1.0以上	3				
働き方改革	職員の意識改革 業務改善の推進	○毎週水曜日を定時退校日とし、月行事・週計画表に記載するとともに、当日は職員室の黒板で告知する。	○定時退校日に定時退校する職員60%以上、全職員が遅くとも20時までに退校する日が週に3日以上	3	○多くの職員が計画的・効率的に業務を行い、自己決定した時間までに退校している。 △定時退校日の取組は継続していくことがさらに必要である。 ○時間外勤務を前年度比10%程度削減できた。 △教育活動を見直し、効果のある教育活動を追求していくことが必要である。	A A	・自己評価は適切である。 ・今年度は新型コロナウイルス感染症対策に伴う見えないご苦労があったことと思う。その上で働き方改革の成果が表れていることを高く評価したい。 ・コロナで、授業以外の仕事が増えて大変だったと思う。本当に先生方には感謝しかない。	・引き続き、定時退校日の事前告知・意識付けに努める。 ・同学年の話合い等に使える空き時間を増やす。 ・交換授業により、授業力を高めるとともに、教室環境づくりを学び合う。
		○校内ネットワークを生かし、会議でのペーパーレスの提案・協議・修正を進める。共有フォルダを活用し、教材の共有化を一層進める。	○時間外勤務を前年度比10%削減	3				

◇評価について  
 ・【自己評価】 4：目標達成(90%以上) 3：ほぼ達成(70%~90%) 2：もう少し(60%~70%) 1：できていない(60%未満)  
 ・【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである